

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 2月 15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200221		
法人名	ウェルフェアー株式会社		
事業所名	みのりグループホーム川内		
所在地	広島県広島市安佐南区川内1丁目22-55 (電話) 082-830-0005		
自己評価作成日	令和6年1月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200221-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200221-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年2月7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所では「家庭的な雰囲気を大切にし、ゆっくり楽しく、明るい笑顔を作る」を施設理念におき、施設と言うよりは家庭にいるような雰囲気の中で人付き合いの中で時々現れる認知症の対応を心がけています。入居者様に自由に行動して頂き、職員はしてあげるのではなく、あくまでサポートして手伝わせて頂いているという姿勢を持って認知症ケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

施設理念、「家庭的な雰囲気を大切にし、ゆっくり楽しく、明るい笑顔を心がけましょう」を掲げ、日頃のケアの中で利用者が当たり前の生活をする上で具体的なグループホーム方針を記載し、朝礼や職員会議で意見や情報共有を行い実践している。身体拘束適正化検討委員会は運営推進会議後に出席者の参加で開催し、事業所の現状報告を行い出席者から貴重な意見交換の場となっている。職員は年間研修計画を立て、議題を出し研修や前回の振り返り等を行い、身体拘束をしないケアを実践している。看取りに関して契約時に利用者、家族に説明するが、信頼関係を築いてから段階的にアンケートを行い、利用者、家族の意向や要望等に耳を傾け、職員は看取り研修で知識を習得し、医療機関と連携を図りながら統一したケアの支援に取り組んでいる。有事の際、今後地域合同の訓練を行い協力体制の構築に尽力している。

自己評価	外部評価	項目( 1階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設理念を施設内に掲示し、毎週月曜日には唱和を行っている。ケアプラン会議等でも適宜理念の話し合いが出来ている。	施設理念を提示し、理念に沿った施設作りを行うために具体的な方針を記載し、職員間で注意し合えるケアに取り組んでいる。年1回の個人面談、毎月の職員会議やケアノートを通じて情報の共有を行い、当たり前前の生活が送れるよう実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所のスーパーでの買い物、散歩等を通して近隣の方々との触れ合いを行っている。(コロナが5類になってから少しずつ行っている。)	町内会に加入し、回覧板や運営推進会議の構成員の地域代表者からの情報や地域の清掃活動に参加し交流をしている。コロナが5類になり、散歩や日用品の買い物、近隣神社へ初詣や秋祭りのイベントに参加している。中学校生徒の職場体験の再開やボランティアなどとの交流を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センター等の実施している講義(200M)等に参加し、認知症に係る方々と事業所と認知症の関りについて意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ5類移行後は2ヶ月に1回地域の方々、地域包括支援センターの方々に集まって頂き、情報共有させて頂いている。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、万年青会長などの出席で開催している。利用者状況、交流・行事報告、勉強会報告をしている。身体拘束適正化委員会を同時に行い、意見交換の場となっている。今後は家族や多職種の参加が得られるよう情報の発信を検討している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センター、市役所等に密に連絡をとり、制度の分からない部分や、疑問点を適宜問い合わせを行っている。	運営推進会議の参加で意見など頂き情報共有している。不明な点などは電話や窓口に出向き相談や解決策など頂き、運営に活かすよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3カ月に1回、身体拘束委員会を開き、身体拘束、虐待への理解を深めている。運営推進委員会でも毎回虐待の有無の確認を行うようにしている。	身体拘束廃止検討委員会は運営推進会議出席者参加で多職種による会議をしている。年間研修計画に基づき身体拘束・虐待研修を行い、議題を出し協議し、個々に前回の振り返りを行う事で、身体拘束や虐待の弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	3カ月に1回、身体拘束委員会を開き、身体拘束、虐待への理解を深めている。日頃から朝礼等を利用し、細かい不適切ケアのチェックをし、注意を促している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度を実際に利用しており、職員も身近に感じてはいるが、詳しく学ぶ機会を持っていない。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約内容の詳しい説明を行っている。施設見学に来られた際にも疑問点に対し、しっかり説明を行うようにしている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ5類移行後、まだ家族会等を行っていない。来年の夏に開催する予定。12月より少しずつ家族の面会を行っている。家族の意見・ご要望を聞き、ケアに反映させるようにしている。	個々の利用者担当者が毎月の請求書の郵送時に手紙を同封し、日頃の様子などを報告し、意見や要望を傾聴している。体調変化や預り金の出納など電話で連絡している。面会制限を行ってきたが、通常的面会や外出など再開の予定を検討している。	

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1回/月の職員会議、モニタリング・ケアプラン会議にて職員の意見提案を聞き、業務、ケアに反映させるようにしている。	日頃のケアの中での気づきや職員の思いなどケアノートに記入し、職員会議や、ミーティングを通じて職員の意見を聞いている。利用者の状況や歩いてみたい要望を会話の中から汲み取り、車いすから立ち上がり歩行ができるよう取り組んだ事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の評価に関してはその都度、管理者からスタッフに伝えるようにしている。出来る限り残業せずに退勤できるように、雑業務の簡易化を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修は1回/月必ず行っている。コロナの関係もあり、法人外での研修は出来ていないのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナの関係で他事業所県外にあるため、直接的な交流が出来ていないが、ライン、ZOOM等にてケア・事例等を交換し合い、ケアの向上につなげている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	現在、職員数は充実しており、一人ひとりにしっかり傾聴出している。今後もケア会議等でケアの方向を話し合っていく。		

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会時、月1回の家族への手紙で近況報告を行っている。体調の変化、ケアの変更時には直接電話にて近況報告を行うと共に家族の要望にも出来る限り応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居される方は不安が大きいため、普通の生活を聞き、危機管理と自己実現を身体機能や精神状態を見ながら臨機応変に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員から、一方的に介護するのではなく、利用者を選択して頂き、難しい部分をサポートする。利用者様の人としての生活を守りながら共に生活していく事で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で面会していなかった状態が長なったため、なかなか面会に来られないご家族も多い。それゆえに事あるごとに細かい情報を家族に伝える事で、家族と共に利用者様を支えていくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔食べられていた食べ物等を聞いて食事に出してみたり工夫している。昔の知り合いからの電話もご家族の許可を取って話をしてもらおうようにしている。	家族、親戚の面会や家族の協力を得て墓参りや馴染みの美容院への外出、昔行った事のある植物公園や動物園など事前に職員が下見を行い、思いが叶えられる支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	基本的には、共同生活という事で、利用者様の関りは利用者様同士で向き合っているが、孤立したり、言い争いになる場合には、職員が、間を取り持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院され、やむなく退居された方に対しても戻ってこれるように待機リストにいて、その後も家族と連絡を取るようになっている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向・行動に対して基本的に自由に行動して頂いている。困難な場合は本人の世界観を大切に、しっかり話を聞くことで、解決策を模索している。	日頃のケアの中で知り得た情報やコミュニケーションをする中で一言をケアノートや業務日誌に記載し、情報を共有している。表出の困難な利用者は歩んで来られた人生観を大切に思い、関わる事により、表情などで把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に話を聞いたり、家庭におかれていたものを持ち込んでもらったりして、出来る限りこれまでの生活を暮らせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝礼等を利用し、個々の1日の情報を共有し記録することで現状を把握している。それ以外でも細かい気づきをその都度報告するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b>  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月職員会議を行い、家族、本人の意向を共有し、毎月1回の担当学会議にて看護師、ケアマネジャー等と意見を出し合い、計画を作成している。	利用者、家族の意向を把握し、毎月の職員会議や担当学会議で多職種の意見や提案などを反映した介護計画を作成している。定期的に行うモニタリングや状況に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b>  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録以外にもチャットノートと題して、細かい気になることも逃さないようにノートに書き出し共有している。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b>  本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外出に関しても少しずつ取り組んでいるが、ニーズに沿った施設内で行ったり、食べたい物を作って一緒に食べたりと柔軟に取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b>  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の畑にて芋掘りを行ったり、施設内で行える資源として毎月1回イベントを企画し、楽しんでいただいている。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診支援</b>  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在の主治医を変更し、家族・入居者様のご意向を第一に考え取り組んで頂いている。	契約時、かかりつけ医の説明を確認している。従来の医療機関の受診も可能である。基本的に、家族対応であるが困難な場合は事業所職員が対応をしている。協力医療機関の月2回の訪問診療、夜間の対応や週1回の訪問看護による健康管理をしている。希望によりかかりつけ医の変更も可能である。	

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回の訪問看護時に1週間の情報・医師の往診時の状況を伝えるだけでなく、メールを使用し、リアルタイムで看護師の情報交換を行って適切な支援を受けられる状態を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず付き添い、情報交換を行っている。定期的に看護ステーションに連絡を取り、情報交換を行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人の心身の状況変化がある時だけでなく、ケアが変わる場合にも細かくご家族に話をし、施設の方針を伝えつつご家族の意思を確認するようにしている。	契約時に終末期について確認をしている。信頼関係を築き、状況が重度化に至るまで、段階を踏まえながら数回のアンケートの記入で希望の確認をしている。重度化した時、家族に説明を行い看取り計画を作成し、職員は看取りについての勉強会で知識を習得し、医師、看護師、多職種で寄り添う支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡方法、対応についてのマニュアルを作成し、常に分かるように設置している。定期的な訓練は出来ていない。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練・避難訓練に実際にスタッフも参加し、いざという時の対処法を念頭に置きながら仕事を行っている。BCP(事業継続計画)に関連する災害対策に関しても定期的に勉強会を行っている。	年2回、消防署指導のもとで火災訓練をしている。訓練の際は緊急通報、緊急時フローチャートの確認に加え、消火器を使用した初期消火訓練も実施している。災害時に備えて備蓄品として食料品など利用者、職員を含めて3日分を整備している。水害時に備えて地区3介護事業所で地域合同避難訓練を開催した。	



自己評価	外部評価	項目( 1階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳を守るケアを行うために、日々の不適切ケアをお互いが注意しあえる関係性をスタッフ間で築けるよう、職員会議等にて声掛けを行っている。	介助する際は敬語を使い人格を尊重した声掛けをしている。朝礼や職員会議で意識づけを行い、言葉掛けや不適切ケアは職員間で注意や指導をしあえる関係性ができている。個人情報にも十分配慮した取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が実際に発した言葉だけでなく、日常生活の中で発した言葉、行動を見逃さず、記録に残して共有するように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な起床時間、食事時間、就寝時間等はあるが、その時間にとらわれず、出来る限り本人の意思に任せた生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	過去に使っていた化粧水等は同じものを購入し、今までのように使っている。衣服に関しても本人に自己決定を促している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	家事手伝い等は利用者様に任せれる部分はお任せし、役目を持ってもらうことで生きがいを持ってもらっている。	副菜は業者の献立で食材を発注し、厨房で調理し手作りの献立を提供している。花見弁当や恵方巻などの行事食やおやつの際にホットケーキやたこ焼きパーティー、誕生日は好きな物や誕生日ケーキで皆でお祝いをしている。家族との外食や時には食べたいピザを提供するなど、食を楽しむ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	日々の食事量・水分量をしっかり記録し、食事量が不足している利用者様には、栄養補助食品等を取って頂くことにしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自力で口腔ケアを行っている利用者様でも磨きが足りない方は職員が仕上げをするようにしている。必要に応じて周期的に歯科往診にて口腔内ケアを行っている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表に日頃のパターンを記録することで、職員側からトイレの声掛けを行うことで失敗を減らし、トイレの排泄を促す様に工夫している。	排泄パターンを記録し、一人ひとりの情報を共有し、食事前後にトイレの声掛け誘導を行い、トイレで座位での排泄支援に取り組み、オムツから布パンツになるなど自立に向けた支援を実践している。体操や乳製品などの摂取で便秘予防に努めている。	
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝ヨーグルト、牛乳を提供し、毎朝テレビ体操を行うことで便秘解消に努めている。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の日にち時間は決めておらず，その時の利用者様の気分や状況に沿って入浴を進めている。拒否がある場合は無理はしないようにしている。	週2回が基本であるが、気分や体調などに考慮し柔軟に対応している。風呂好きの利用者は1日おきの入浴希望もある。拒否の場合は職員を変えたり、足浴や清拭を行い、無理強いせず日を変えるなどしている。又、一人ひとり湯を変え、ゆっくりと入浴できる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は特に決めていないが、気持ちよく休めるように夜の雰囲気を作り、本人の休みたい時間に居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方が出ると薬局に説明を聞き、用法容量、副作用等を職員間で共有し、疑問に関しては訪問看護等に聞き、確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	好きな歌や映像を流したり、ゴミ捨て等に付き合っていたり、外に出たり、外出の希望がある場合は散歩したりすることで気分転換をして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者様が高齢化してきていることもあり、外出レクの機会は少なくなっているが、花見・もみじ狩り等、季節ごとのドライブ等は行っている。ご家族に頼んで、墓参りや昼食に出かけられることもある。	コロナ禍や利用者の高齢化に伴い外出支援が少なくなっているが、散歩や近隣の花見、紅葉狩り、庭の人工芝に出てプランターの花の植え付けや花の色合いや咲き具合など四季を感じる支援をしている。今後は家族の協力を得ながら少しずつ外出支援を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預り金として家族よりお金を預かっており、本人から何らかの購入の意思があった場合はいつでも買い物に行けるようにしている。どうしても自分で現金を持ちたいと言われる方には家族と話をして自己にて所持していただいている。		

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が家族・友人に連絡を取りたいと言われる場合には、先方に許可を取り、いつでも連絡が取れるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員同士の話し声、金属音、食器の音等に敏感な利用者様がいる事を職員に常に話し、お互いに注意しあうようにしている。	感染症予防対策や空調管理、空き空間に濡れたタオルを干し、加湿器に加えて湿度にも工夫をしている。壁面に季節感ある飾り付けや利用者の体型にあった机や椅子の高さに配慮している。できる事として食事の下ごしらえや食器洗い、洗濯干しやたたみなど行い、話し声や物音が不快にならないよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ワイワイ話をしたい方、ゆっくり過ごしたい方でフロアの配置を考慮する事で個人に応じた過ごし方が出来るように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	新規入居時に本人の部屋の状況、馴染のものを聞き、持ってきて頂けるものは持参して頂き、こちらで用意できるものは本人と話をしながら揃えていくようにしている。	エアコン、ベッド、タンス、収納タンスが設置してある。自宅で使い慣れた椅子や机、仏壇や写真、人形などを飾っている。ベッドに慣れない利用者は床にクッション材を敷きその上に寝具を敷き、自宅の就寝時に近づくよう工夫している。掃除は職員と共に行い清潔感が保たれ居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	あえて張り紙や目立つ誘導表示は作っていない。職員が日々利用者様と話をしながら利用者様自身が考え行動して頂けるようにしている。		

V アウトカム項目( 1階ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設理念を施設内に掲示し、毎週月曜日には唱和を行っている。ケアプラン会議等でも適宜理念の話し合いが出来ている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所のスーパーでの買い物、散歩等を通して近隣の方々との触れ合いを行っている。(コロナが5類になってから少しずつ行っている。)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括等の実施している講義(ZOOM)等に参加し、認知症に係る方々と事業所と認知症の関りについて意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ5類移行後は2ヶ月に1回地域の方々、地域包括の方々に集まって頂き、情報共有させて頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括センター、市役所等に密に連絡をとり、制度の分からない部分や、疑問点を適宜問い合わせを行っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3カ月に1回、身体拘束委員会を開き、身体拘束、虐待への理解を深めている。運営推進委員会でも毎回虐待の有無の確認を行うようにしている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	3カ月に1回、身体拘束委員会を開き、身体拘束、虐待への理解を深めている。日頃から朝礼等を利用し、細かい不適切ケアのチェックをし、注意を促している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度を実際に利用しており、職員も身近に感じてはいるが、詳しく学ぶ機会を持っていないのが現状。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約内容の詳しい説明を行っている。施設見学に来られた際にも疑問点に対し、しっかり説明を行うようにしている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ5類移行後、まだ家族会等を行っていない。来年の夏に開催する予定。12月より少しずつ家族の面会を行っている。家族の意見・ご要望を聞き、ケアに反映させるようにしている。		



自己評価	外部評価	項目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1回/月の職員会議、モニタリング・ケアプラン会議にて職員の意見提案を聞き、業務、ケアに反映させるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の評価に関してはその都度、管理者からスタッフに伝えるようにしている。出来る限り残業せずに退勤できるように、雑業務の簡易化を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修は1回/月必ず行っている。コロナの関係もあり、法人外での研修は出来ていないのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナの関係で他事業所県外にあるため、直接的な交流が出来ていないが、ライン、ZOOM等にてケア・事例等を交換し合い、ケアの向上につなげている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	現在、職員数は充実しており、一人一人にしっかり傾聴出している。今後もケア会議等でケアの方向を話し合っていく。		

自己評価	外部評価	項目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会時、月1回の家族への手紙で近況報告を行っている。体調の変化、ケアの変更時には直接電話にて近況報告を行うと共に家族の要望にも出来る限り応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居される方は不安が大きい、普通の生活を聞き、危機管理と自己実現を身体機能や精神状態を見ながら臨機応変に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員から、一方的に介護するのではなく、利用者を選択して頂き、難しい部分をサポートする。利用者様の人としての生活を守りながら共に生活していく事で信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	2階は細目に連絡を取っている家族様が多く、その都度、細かい情報を家族に伝える事で、家族と共に利用者様を支えていくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔食べられていた食べ物等を聞いて食事に出してみたり工夫している。昔の知り合いからの電話もご家族の許可を取って話をしてもらおうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	基本的には、共同生活という事で、利用者様の関りは利用者様同士で向き合っているようにしているが、孤立したり、言い争いになる場合には、職員が間に入り、間を取り持つようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院され、やむなく退居された方に対しても戻ってこれるように待機リストにいれ、その後も家族と連絡を取るようになっている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向・行動に対して基本的に自由に行動して頂いている。困難な場合は本人の世界観を大切に、しっかり話を聞くことで、解決策を模索している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に話を聞いたり、家庭におかれていたものを持ち込んでもらったりして、出来る限りこれまでの生活を暮らせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝礼等を利用し、個々の1日の情報を共有し記録することで現状を把握している。それ以外でも細かい気づきをその都度報告するようになっている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月職員会議を行い、家族、本人の意向を共有し、毎月1回の担当者会で看護師、ケアマネージャー等と意見を出し合い、計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録以外にもチャットノートと題して、細かい気になることも逃さないようにノートに書き出し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外出に関しても少しずつ取り組んでいるが、ニーズに沿った施設内でできる企画を行ったり、食べたい物を作って一緒に食べたりと柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の畑にて芋掘りを行ったり、施設内でできる資源として毎月1回イベントを企画し、楽しんでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今までの主治医はなかなか家族・本人の意向を取り入れて頂けない状況があったが、現在主治医変更後は、家族・入居者様の意向を第一に考え取り組んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回の訪問看護時に1週間の情報・医師の往診時の状況を伝えるだけでなく、メールを使用し、リアルタイムで看護師の情報交換を行って適切な支援を受けられる状態を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず付き添い、情報交換を行う。周期的に看護ステーションに連絡を取り、情報交換を行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人の心身の状況変化がある時だけでなく、ケアが変わる場合にも細かくご家族に話をし、施設の方針を伝えつつご家族の意思を確認するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡方法、対応についてのマニュアルを作成し、常に分かるように設置している。定期的な訓練は出来ていないのが現状。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練・避難訓練に実際にスタッフも参加し、いざという時の対処法を念頭に置きながら仕事を行っている。BCPに関連する災害対策についても定期的に勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳を守るケアを行うために、日々の不適切ケアをお互いが注意しあえる関係性をスタッフ間で築けるよう、職員会議等にて声掛けを行っている。特に介助中は言葉遣い、態度を見直す様に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が実際に発した言葉だけでなく、日常の生活の中で発した言葉、行動を見逃さず、記録に残して共有するように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な起床時間、食事時間、就寝時間等はあるが、その時間にとらわれず、出来る限り本人の意思に任せた生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	過去に使っていた化粧水等は同じものを購入し、今までのように使っていただいている。衣服に関しても本人に自己決定を促している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	家事手伝い等は利用者様に任せれる部分はお任せし、役目を持ってもらうことで生きがいを頂いている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	日々の食事量・水分量をしっかり記録 し、食事量が不足している利用者様 には、栄養補助食品等を取って頂くこ とにしている。寒天ゼリーを食べて頂 き、水分不足の利用者様に提供して いる。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう 、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本 人の力に応じた口腔ケアをしている。	自力で口腔ケアを行っている利用者 様でも磨きが足りない方は職員が仕上 げをするようにしている。必要に応じ て定期的に歯科往診にて口腔内ケア を行っている。男性拒否の利用者様 には出来る限り女性スタッフが対応 するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし 、一人ひとりの力や排泄のパターン 、習慣を活かして、トイレでの排泄 や排泄の自立に向けた支援を行って いる。	排泄表に日頃のパターンを記録する ことで、職員側からトイレの声掛け を行うことで失敗を減らし、トイレ の排泄を促す様に工夫している。大 バットから小バットへの変更等、職 員で話し合いながら提案している。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し 、飲食物の工夫や運動への働きかけ 等、個々に応じた予防に取り組んで いる。	毎朝ヨーグルト、牛乳を提供し、毎 朝テレビ体操を行うことで便秘解に 努めている。水分不足の利用者様 には寒天ゼリーを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合 わせて入浴を楽しめるように、職員 の都合で曜日や時間帯を決めてしま わずに、個々に応じた入浴の支援を している。	入浴の日にち時間は決めておらず 、その時の利用者様の気分や状況に 沿って入浴を進めている。拒否があ る場合は無理はしないようにしてい る。		

自己評価	外部評価	項目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は特に決めていないが、気持ちよく休めるように夜の雰囲気を作り、本人の休みたい時間に居室に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方が出ると薬局に説明を聞き、用法容量、副作用等を職員間で共有し、疑問に関しては訪問看護等に聞き、確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	好きな歌や映像を流したり、ゴミ捨て等に付き合っただき、外に出たり、外出の希望がある場合は散歩したりすることで気分転換して頂いている。時間を取って一緒に歌を歌ったりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者様が高齢化してきていることもあり、外出レクの機会は少なくなっているが、花見・もみじ狩り等、季節ごとのドライブ等は行っている。ご家族に頼んで、墓参りや昼食に出かけられることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預り金として家族よりお金を預かっており、本人から何らかの購入の医師があった場合はいつでも買い物に行けるようにしている。どうしても自分で現金を持ちたいと言われる方には家族と話をして自己にて所持していただいている。		



自己評価	外部評価	項目( 2階ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が家族・友人に連絡を取りたいと言われる場合には、先方に許可を取り、いつでも連絡が取れるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員同士の話し声、金属音、食器の音等に敏感な利用者様がいる事を職員に常に話し、お互いに注意しあうようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事介助が必要な利用者様と自立で楽しめる利用者様で机を分ける事で、利用者様にあった食事のスタイルを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	新規入居時に本人の部屋の状況、馴染のものを聞き、持ってきて頂けるものは持参して頂き、こちらで用意できるものは本人と話をしながら揃えていくようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	あえて張り紙や目立つ誘導表示は作っていない。職員が日々利用者様と話をしながら利用者様自身が考え行動して頂けるようにしている。		

V アウトカム項目( 2階ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 みのりグループホーム川内

作成日 令和6年3月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議にご家族・職員の参加が出来ていない。	お家族、職員の参加してもらうことで、入居者、家族、職員の思い・情報を交換する。	<ul style="list-style-type: none"><li>ご家族への参加の声掛け。</li><li>職員へ運営推進会議の重要性を説明し理解を求める。</li></ul>	1年
2	2・18	コロナの影響もあり、利用者様と地域のつながりが薄れている。	地域のイベントへの積極的な参加。	<ul style="list-style-type: none"><li>地域の情報収集。</li><li>外出に向けた職員の介助指導。</li><li>入居者様のニーズの把握。</li></ul>	1年
3	10	コロナの影響もあり、ご家族との情報交換が不足している。	利用者様・ご家族の両方の今の思いを深め合う。	<ul style="list-style-type: none"><li>家族会を計画する。</li><li>ご家族の面会を施設からの声掛け。</li><li>オンライン面会等も考える。</li></ul>	6ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。